

渡来セミナー

(セミナー、セミナーの基礎、卒業研究指導[卒業論文含む])

気象学・気候学に関する多様なトピックスをテーマにしています。4年生はそれぞれのテーマで卒業研究を進め、セミナーではそれらを題材に発表・質疑・議論が展開。2019年度は「秩父の雲海の特徴」「館林アメダス移設の影響」「日本の竜巻発生環境場の特徴」「ジェット気流の長期変化」等が研究されています。

▶ 学科ページ P.122

• 学科 TOPICS

環境科学アドバンスト



や卒業後のキャリア形成のための専門性と自由度を高めることが目的です。2年次から研究室に入り、3年次で卒業研究を行う場合もあり、4年次には大学院での研究を始めたり、せずに留学することも可能です。

気象予報士試験合格サポート



生を全面的にサポートしています。2019年度は1名、最近3年間では合計4名が在学中格し、卒業後は民間気象関連会社等で活躍しています。



貝沼セミナー

（地理学セミナーI・II・III・IV）

国際化社会に対応していくための異文化理解、海外諸地域の研究をテーマとしています。

特に経済格差が地域に及ぼす影響に着目し、経済格差が作り出される要因を地域特性に照らし合わせて明らかにしていきます。また地理学がSDGsに密接に関わる学問領域でもあるため、持続可能な地域社会のあり方についても考えていきます。



セミナー=TOPICS・



地域に学び、地域を知り、地域に貢献する

フィールドワークⅡでは、所属セミナーの教員と学生とともに3泊4日で調査地域に赴き、自らが掲げたテーマについて調査します。フィールドワーク中は現地でしか得られない情報を入手することを目的に、早い段階で自らのテーマ設定を行い、現地に行く前に手に入る資料はどのようなものがあるかを考えます。綿密な事前準備を行うことでフィールドワークの機会を最大限に有効活用することが可能になり、聞き取り調査でも相手にこちらの意図が正確に伝わることで限られた時間のなかで多くの情報が得られるようになります。またフィールドワーク後は現地で入手したデータの分析やまとめ方を考え、レポート作成過程で不足している資料を認識。それらの経験を翌年の卒業研究作成に生かしていきます。フィールドワークによって経験する事前準備からの一連の取り組みは、社会に出てからも役立つスキルを大いに向上させます。

理学科では、2年次の「地理学基礎セミナー」を経て、自らが専門的に学びたいと考える領域に近い教員のセミナーに所属し、卒業研究に取り組みます。このセミナーでは、国際社会や異文化理解、および経済地理学を主なテーマとして扱っています。学生は原則として2年間は同一教員のセミナーに所属するため、研究への取り組み方、既存研究の読み解き方、課題の見つけ方をはじめ、調査計画の作成法、聞き取り調査の段取り、統計資料の分析法を修得し、地域の課題を見つけて出して自らの考えを述べる等、卒業研究をまとめるうえで不可欠な力を着実に養います。輪読やレポート作成、プレゼンテーションをとおしてインプットのみならずアウトプットの力も修得し、さらに学年を越えた学生同士の共同作業やグループディスカッションによりコミュニケーション能力を高めます。将来的に多様な人材と共生し、よりよい社会を創っていくための力を培う」とをめざします。

理学科では、2年次の「地域の課題を見抜き 解決に貢献する力を養う」

▶ 学科ページ P126